

ニーズNo.		No. 1	No. 2	No. 3	No. 4	No. 5	No. 6	No.7
基本情	臨床機関名	自治医科大学附属病院	自治医科大学	自治医科大学附属病院	自治医科大学附属病院	自治医科大学附属病院	自治医科大学	自治医科大学
	診療科	心臓血管外科	分子病態研究部（基礎研究部門）	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科	脳神経外科	脳神経外科	形成外科
	職種	医師	教授（循環器内科）	医師	医師	医師	医師、教員	医師
提案するデバイス	デバイスの種類	人工心肺関連デバイス	生体を非侵襲に光モニタリングするデバイス	内視鏡先端洗浄機器	耳垢鉗子	内視鏡下経鼻頭蓋底手術用硬膜縫合デバイス	先進型頭蓋内電極・送信装置	乳癌術後の体外式組織拡張器
	開発段階	コンセプト段階	プロトタイプにて実証済	コンセプト段階	コンセプト段階	コンセプト段階	コンセプト段階	コンセプト段階
	開発の背景（現状と問題点）	人工心肺装置の確立には動静脈への送脱管の留置が必須であるが、これらで血管損傷などの合併症があり得る。また初心者には極めてストレスの強い手技である。	生体へのマルチスケールな病態把握と診断技術への応用の点からごく限られた情報量のバイオイメージングではなく、ひとつひとつの細胞形質（マイクロ）と、相互ネットワークと破綻を臓器連関まで（マクロ）可視化するツールが求められている。しかし現在用いられている二光子顕微鏡観察は、解像度には優れているものの、せいぜい100ミクロンx100ミクロンの視野を1ミリ深度で撮影できるに過ぎず、生体に比べてあまりにも観察範囲が狭い。	内視鏡の先端に付着した血液を除去するには一度手術野から出して洗浄しなくてはならない。	現在汎用されている耳垢鉗子では、外耳道に膜様に付着する耳垢を除去しにくい。	近年内視鏡下経鼻頭蓋底手術用硬膜縫合が、適用拡大している。しかし、適した縫合デバイスが存在しない。	現行の頭蓋内電極を改良するもの。	日本人の体型と体質にあった装着具。胸部皮膚を陰圧吸引する装置。